

「 家庭総合 」 シラバス

学科	商業科	学年	2 年	類型		組	5 組	単位数	2
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）								
副教材等	令和 8 年度 「家庭科ノート」（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）								

1 学習の到達目標

① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めることができるとともに、関連する技能を身に付ける。
② 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めることができるとともに、関連する技能を身に付けているか。	(3)(4)(5)(6)(7) (8)(9)(10)
思考・判断・表現	生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力が身に付いているか。	(2)(3)(4)(5)(6) (7)(8)(9)(10)
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が身に付いているか。	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(10)
評価方法	主な評価項目	
授業準備の点検	(1)授業の準備についての点検	
学習状況の観察	(2)授業態度、グループワーク等の取り組み状況 (3)発問評価 (4)自己評価の実施	
課題などの提出状況	(5)ノート、授業プリント、グループワーク等でのワークシート提出	
ホームプロジェクト	(6)長期休業中の課題の取組状況	
ペーパーテスト	(7)定期考査	
実技	(8)レポート提出 (9)実技テスト (10)実習作品の提出	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	家庭科の学び方	・学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 ・学校家庭クラブとホームプロジェクトの意義や進め方について理解する。	
	第1章 生涯を見通す	・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生涯発達の視点から、青年期の意義と発達課題を理解する。	
	第2章 人生をつくる	・家庭生活と現代の家庭に求められている諸機能を理解する。 ・生活における価値観や生き方が多様化していることを認識し、自己の価値観に基づく生活設計の必要性を理解する。	
	第4章 超高齢社会を共に生きる	・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。 ・高齢者施設を訪問し、高齢者とのコミュニケーションの図り方や配慮する点を理解する。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	
	第5章 共に生き、共に支える	・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。 ・ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。	
	・ホームプロジェクト	・設定したテーマに沿って分かりやすく発表することができる。	(1)(6)
二 学 期	第7章 衣生活をつくる	・被服制作実習としてエプロンを仕上げる。 ・被服の起源や多様な機能や特徴について理解する。 ・社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身に付けるとともに、被服の材料や性能等について科学的に理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身に付けるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	(8)(9)(10)
三 学 期	第9章 経済生活を営む	・家計の構造や家計管理を理解し、ライフステージや社会保障制度などと関連づけて考察する。	
	第10章 持続可能な生活を営む	・消費行動の意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深め、生活情報を適切に活用ができる。 ・消費者としての権利と責任を理解し、契約の重要性や消費者保護のしくみについて理解を深める。	

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(7)については、全ての単元において評価項目とする。